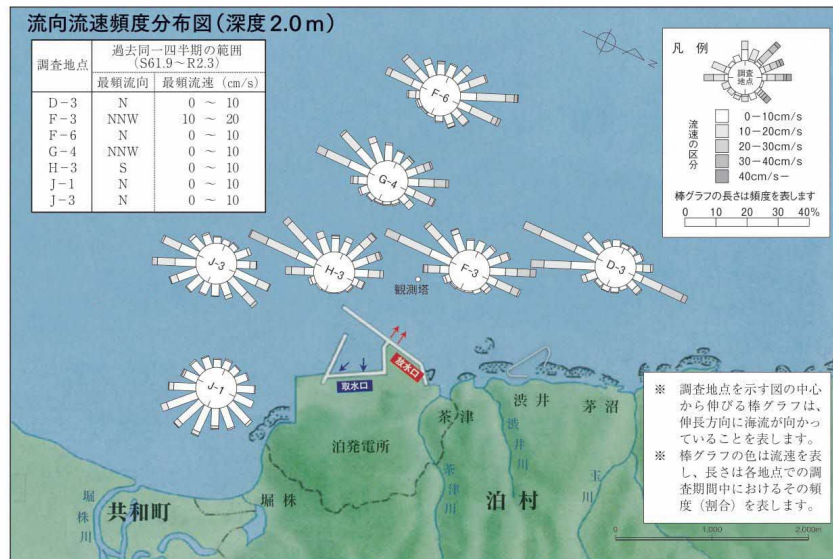


### 3 流向・流速調査

令和3年(2021年)2月1日～15日に調査を実施しました。  
 流向は南北方向の頻度が高く、流速は0～10cm/秒の頻度が大半を占めていました。



### 4 水質・底質調査

令和3年(2021年)2月13～15日に発電所から3km以内の海域で調査を実施しました。  
 水質調査の項目の一部で「過去の同一四半期の範囲」を超えましたが、全体としては**大きな変化は認められませんでした**。

項目	単位	今回の測定結果	過去の同一四半期の範囲 (S61.9～R2.3)
水質調査			
塩分	-	32.3～33.9	28.8～34.2
透明度	m	8.9～13.8	3.0～23.5
水素イオン濃度	-	7.9～8.0	7.8～8.3
溶解酸素量	mg/L	9.6～10.6	8.2～12.3
化学的酸素要求量	mg/L	<0.5～0.5	<0.5～2.4
浮遊物質	mg/L	<1.0～8.5	<1.0～10.4
全リン	mg/L	0.012～0.019	0.009～0.046
リン酸態リン	mg/L	0.01～0.013	0.004～0.033
全窒素	mg/L	0.14～0.21	0.03～0.61
アンモニア態窒素	mg/L	<0.005～0.018	<0.005～0.040
亜硝酸態窒素	mg/L	<0.003	<0.003～0.006
硝酸態窒素	mg/L	0.067～0.097	0.008～0.162
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5～0.7	<0.5～1.4
底質調査(注)			
化学的酸素要求量	mg/g乾泥	0.3～0.9 (4.1～4.3)	<0.1～2.1 (1.2～20.8)
全硫化物	mg/g乾泥	<0.01～0.02 (0.06～0.12)	<0.01～0.12 (<0.01～0.91)
強熱減量	%	1.3～3.4 (2.8～4.6)	0.7～5.1 (1.7～7.0)
粒度組成	-	主として細砂分(同左)	主として細砂分(同左)
中央粒径	mm	0.14～2.5 (0.14～0.18)	0.11～4.23 (0.10～0.33)

<: 定量限界値未満を示す。  
 (注) 底質調査では、泊発電所専用港内の調査地点の結果が、平成19年度第1四半期からその他の地点の結果と分けて評価されることとなったため、( )内に示しました。

### 5 生物調査

令和3年(2021年)2月1日～3月2日に調査を実施しました。  
 出現種類数は全項目で**過去の同一四半期の範囲内**でした。

項目	調査方法	出現種類数	過去同一四半期の出現種類数の範囲	主な出現種類名
潮間帯生物	目視	56	27～56	イワフジツボ、コウダカチャイロタマキビガイ、ムラサキインコガイなど
底生生物	マクロベントス※	採泥法	専用港外 40 専用港内 20	マルソコエビ科の1種、ヒサシソコエビ科、レウコン科の1種など
	メガロベントス※	目視	40	ギボシソイメ科の1種、タケフシゴカイ科、シログネゴカイ科の1種など
海藻	目視	51	42～62	無節サンゴモ類、イソガワラ、フクロノリなど
魚等の遊泳動物	刺網等	23	13～30	ソウハチ、ツマグロカジカ、マダラなど
卵	MTD ネット	3	1～3	スケトウダラ、カレイ科1、アカガレイ
稚仔	MTD ネット	6	3～10	スケトウダラ、ホッケ、フサギンボ属など
動物プランクトン	ネット法	53	32～65	甲殻綱
植物プランクトン	ネット法	65	37～84	珪藻綱、渦鞭毛藻綱

※マクロベントスは、1～4mmの底生生物(貝類、エビ、ゴカイなど)のことであり、それよりも大きいものをメガロベントスという。

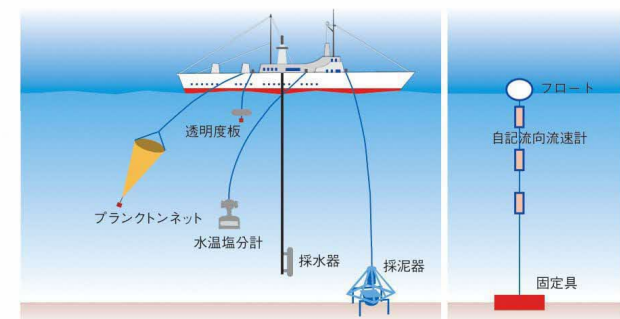
#### スケトウダラ卵・稚仔・稚魚

令和2年12月28日から令和3年3月12日に調査を実施した結果、全て過去の調査結果の範囲内でした(第4四半期のみ実施)。

項目	調査方法	単位	出現平均個体数				過去の調査結果の範囲 (S61.9～R2.3)
			12月	1月	2月	3月	
卵	北太平洋標準ネット	個体数/100㎡	3	122	869	31	0～6,622
稚仔	北太平洋標準ネット		0	+	59	6	0～151
稚魚	改良型まるちネット	個体数/500㎡	0	+	4	+	0～5

+ : 1個体/500㎡未満を示す

#### ◆温排水影響調査における調査の方法



#### 調査の方法

水温調査	定点で測定器(水温塩分計)を海底まで下ろす定点測定と調査測線に沿って測定器を曳航(えいこう)する航行連続測定があります。
流向・流速調査	流向・流速を15日間連続して測定しています。
水質調査	採水器を用いて深さごとに採水を行い、溶存酸素、栄養塩など12項目の分析を行っています。また、透明度板を用いて透明度の測定を行っています。
底質調査	採泥器を用いて海底の土を採取し、化学的酸素要求量、粒度組成など4項目の分析を行っています。
生物調査	プランクトンネット、採泥器、刺し網等を用いた採取や目視観察により、潮間帯生物、魚等の遊泳動物や卵・稚仔、プランクトン、底生生物などの海生生物の出現状況の調査を行っています。